

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

1814年にオーストリア外相の〔A〕の提唱で開催されたウィーン会議により、ヨーロッパ各地に広まった自由主義はおさえられ、〔A〕らの保守主義が優位になった。一方で、ウィーン会議以後、ヨーロッパでは列強の協議によって勢力均衡と平和を維持する列強体制が定着し、その柱となったのは、圧倒的な経済力と海軍力を誇るイギリスと、強大な陸軍を誇るロシアであった。ロシア皇帝の〔B〕はウィーン体制の強化をねらい、ヨーロッパのほとんどの君主が参加する神聖同盟を結成し、イギリスなどとは四国同盟も結んだ。しかし、ロシアとイギリスが常に協力体制にあったわけではない。

1853年にロシアが南下政策の一環として、〔C〕の保護を理由にオスマン帝国を攻撃しクリミア戦争が勃発すると、イギリスはフランスとともに参戦し、オスマン帝国を支援してロシアを敗退させた。ロシアはこの敗退で近代化改革の必要性を痛感し、1861年に〔D〕を発布するなど改革を推進した。

一方、イギリスとロシアの対立により列強体制が緩み、各国が自由に行動できる余地が生まれたことが一因となり、イタリアやドイツでは統一を目指す運動が活性化した。

イタリアでは、1848年にフランスで起きた二月革命の混乱の隙をついて、〔E〕がローマ共和国を建国するもフランス軍により打倒されるなど、民衆による統一は挫折した。しかし、サルデーニャ王国の国王であるヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世が、〔F〕より両シチリア王国を献上されたことで1861年にイタリア王国を建国し、イタリア半島の大部分を統一した。その後、1866年にヴェネツィアを併合し、1870年にはローマ教皇領も占領した。

一方ドイツも、イタリアと同時期に統一を達成している。鉄血政策を掲げる〔G〕が首相としてプロイセン国王〔H〕を補佐し、1866年にはプロイセン＝オーストリア戦争（普墺戦争）で勝利を収めて北ドイツ連邦を形成した。その後、1870年にはスペイン王位継承問題などで対立していたナポレオン3世と戦い、彼を捕虜にした。こうして軍事力で他国を圧倒したプロイセンは、1871年に〔H〕を皇帝とするドイツ帝国を樹立した。

統一後のドイツでは、〔G〕が政教分離に批判的なカトリック教徒を、文化闘争と称して抑圧し、さらに、政府に反発する社会主義者を弾圧するなど、強権的な政治で国内の安定をはかった。また、〔G〕は外交面では、敵対するフランスの孤立化を目指し、オーストリアとロシアとの間で三帝同盟を締結した一方で、ロシア＝トルコ戦争（露土戦争）の戦後処理をめぐるイギリスとロシアの対立を調停するためにベルリン会議を開催するなど、国際政治におけるドイツの発言力を強めていった。こうして従来のイギリスやロシアを中心とした列強体制は、イタリアやドイツの統一を経て、大きく様変わりしたのである。

問1 文中〔A〕から〔H〕までの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔1〕～〔8〕。

- A ① メッテルニヒ ② ウィクリフ ③ タレーラン ④ ロベスピエール
- B ① ビョートル1世 ② エカチェリーナ2世
- ③ アレクサンドル1世 ④ ニコライ1世
- C ① カトリック教徒 ② ギリシア正教徒
- ③ イスラーム教徒 ④ ユダヤ教徒
- D ① 航海法 ② 農奴解放令 ③ 工場法 ④ 大陸封鎖令
- E ① マッツィーニ ② マザラン ③ マッキンリー ④ マルクス
- F ① カルヴァン ② ガリバルディ ③ エラスムス ④ グラッドストン
- G ① カヴール ② ジンナー ③ ビスマルク ④ ケレンスキー
- H ① フリードリヒ1世 ② フリードリヒ2世
- ③ ヴィルヘルム1世 ④ ヴィルヘルム2世

問2 下線部（ア）について、四国同盟に参加した国を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔9〕。

- ① スペイン ② プロイセン ③ オランダ ④ ポルトガル

問3 下線部（イ）について、クリミア戦争についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔10〕。

- ① セヴァストポリル要塞をめぐる激しい戦いが行われた。
- ② 講和条約として、パリ条約が締結された。
- ③ この戦争を理由にミドハト憲法が廃止された。
- ④ この戦争の結果、黒海の中立化が定められた。

問4 下線部（ウ）について、この革命で失脚したフランス王を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔11〕。

- ① ルイ16世 ② ルイ18世 ③ ルイ＝フィリップ ④ ルイ＝ブラン

問5 下線部（エ）について、ナポレオン3世についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔12〕。

- ① メキシコ遠征に失敗した。
- ② パリ万国博覧会を開催した。
- ③ ナポレオン1世の孫であった。
- ④ インドシナ出兵を実施した。

II. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

古来より地中海は、交易の場として栄えてきた。しかしそれは同時に、交易をめぐる対立も引き起こすこととなった。

前12世紀頃、Aが地中海貿易の中心であった。当初彼らは、地中海東岸を中心に活動していたが、北アフリカ、具体的には現在のチュニジアにあたる地域にBが建設されたことで、西地中海方面までもがAの交易範囲となった。

前6世紀になると、Aは、オリエントを統一したアケメネス朝の保護下に入った。アケメネス朝は、Aを中心に地中海貿易を本格化させたが、南フランスのマッサリアなどを拠点に地中海貿易を行っていたギリシア人と対立し、前5世紀、ミレトスを中心としたギリシア人の対アケメネス朝反乱を契機とし、ベルシア戦争が勃発した。

アケメネス朝は、サラミスの海戦ではCが指揮するギリシア連合軍に敗北し、プラタイアの戦いでも敗北を喫して撤退に追いやられた。こうしてベルシア戦争はアケメネス朝の敗北に終わり、前4世紀にDの東方遠征軍に滅ばされることとなる。

アケメネス朝の滅亡後、東地中海ではE朝エジプトなどが交易を行っており、比較的平和であった。しかし、西地中海ではローマとBが覇権をめぐる対立し、前3世紀、ポエニ戦争が勃発した。当初、シチリア島を属州とするなどローマが優勢に立ったが、BのF将軍にカンネーの戦いで敗北すると、イタリア半島全体が戦場となり国土が荒廃した。最終的にBを滅ぼしローマが西地中海の覇権を握ったが、国土の荒廃が一因となり「内乱の1世紀」と呼ばれる混乱の時代を迎えるなど、その代償は大きかった。

前1世紀後半、ローマのGがE朝エジプトを滅ぼし、地中海世界を統一した。その後、地中海は交易の場として栄え、ローマも「バクス＝ローマーナ」と呼ばれる最盛期を迎えるなど栄えたが、五賢帝時代を経て、3世紀半ば頃からローマが混乱期を迎えると、地中海も不安定化した。

その後ローマは3世紀末に即位したHのもと、再び安定を取り戻した。しかし、四帝分治制を実施したHは、自らは小アジアを治め、そしてコンスタンティヌス帝がコンスタンティノープルに遷都したことで、ローマ帝国の経済の中心は小アジアなど東方へと移動し、地中海は徐々に交易の場としての価値を失っていった。そして、4世紀後半のゲルマン人の移動とそれに起因するローマ帝国の東西分裂により、西ヨーロッパが政治的安定を失ったことで、地中海は交易の場に加え、戦乱の場としての顔をもつようになった。

問1 文中AからHまでの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は13～20。

- |   |            |               |                       |            |
|---|------------|---------------|-----------------------|------------|
| A | ① イオニア人    | ② フェニキア人      | ③ アラム人                | ④ エトルリア人   |
| B | ① シドン      | ② カルタゴ        | ③ ダマスクス               | ④ シラクサ     |
| C | ① テミストクレス  | ② ポンペイウス      | ③ パリクレス               | ④ レビドゥス    |
| D | ① ダレイオス1世  | ② ダレイオス3世     | ③ アレクサンドロス大王          | ④ フィリッポス2世 |
| E | ① セレウコス    | ② プトレマイオス     | ③ アンティゴノス             | ④ ヘレニズム    |
| F | ① スキピオ     | ② ハンニバル       | ③ グラックス               | ④ スラ       |
| G | ① オクタウィアヌス | ② アントニウス      | ③ カエサル                | ④ クラッス     |
| H | ① トラヤヌス帝   | ② デイオクレティアヌス帝 | ③ マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝 | ④ カラカラ帝    |

問2 下線部（ア）について、アケメネス朝についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は21。

- ① キュロス2世が建国した。
- ② バビロン捕囚からユダヤ人を解放した。
- ③ メディアを滅ぼした。
- ④ ソロモン王の時代に最盛期を迎えた。

問3 下線部（イ）について、ギリシア人が形成したポリスとして適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は22。

- ① アテネ
- ② テーベ
- ③ スパルタ
- ④ イエルサレム

問4 下線部（ウ）について、ベルシア戦争がアテネにもたらした影響として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は23。

- ① 無産市民が参政権を獲得した。
- ② 女性が参政権を獲得した。
- ③ 民主政が完成した。
- ④ デロス同盟を用いて勢力を拡大した。

問5 下線部（エ）について、ゲルマン人国家であるフランク王国の王を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は24。

- ① アッティラ
- ② オドアケル
- ③ クローヴィス
- ④ テオドリック

Ⅲ. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

前 2600 年頃に成立したインダス文明は、〔A〕などの遺跡が優れた都市計画に基づき建設されていることから、高度な文明であったと判断できるが、どのように滅亡したかは明らかにされていない。

インダス文明の滅亡後、前 1500 年頃にアーリヤ人がカイバル峠を通してインドに進出し、インド西北部のパンジャブ地方に定住した。前 1000 年頃にはガンジス川流域にも進出し、農耕社会を形成した。またその過程で、人を司祭や武士、それに〔B〕と呼ばれる農民や商人などの庶民に区分する、ヴァルナ制度と呼ばれる身分制度が形成された。その後、アーリヤ人はマガダ国などの都市国家を形成していくが、都市国家同士の戦争が頻発する中で、仏教やジャイナ教など新たな宗教が生まれた。

前 4 世紀にはナンダ朝を打倒し、インド初の統一国家である〔C〕がチャンドラグプタ王により建国された。〔C〕はパターリプトラを都とし、前 3 世紀の〔D〕の時代に最盛期を迎えたが、〔D〕の死後は、官僚組織や軍隊の維持費が財政を圧迫し衰退していった。

〔C〕の滅亡後、1 世紀に建国された〔E〕は、東西交易の要衝である中央アジアも支配していたため、シルクロードを用いたローマとの交易で栄え、ローマからもたらされた大量の金を用いて金貨が発行された。また、〔E〕と同時期に南インドを支配していたサータヴァーハナ朝も、ローマとの間で行われた季節風貿易によって栄えた。

このようにローマとの貿易で栄えたインドであったが、ゲルマン人の大移動やローマ帝国の東西分裂で地中海世界が混乱すると、中国との交流が活性化した。7 世紀には唐の僧侶であった〔F〕がインドを訪れ、ヴァルダナ朝の保護のもと、ナーランダー僧院で仏教を学び、帰国後には『大唐西域記』を著した。当時のインドではヒンドゥー教が普及していたが、仏教などほかの宗教も王の保護を受けるなど、宗教に寛容な土壌があったのである。

13 世紀にはインド初のイスラーム王朝である〔G〕が建国された。この奴隸王朝からはじまる 5 つの王朝を、デリー＝スルタン朝と呼び、ヒンドゥー教とイスラーム教の文化が融合した壮大な都市が建設されている。また、サンスクリット語の文学がペルシア語に翻訳されるなど、文化の融合が進んだ。

このように文化面では寛容な土壌が形成されていたインドであったが、16 世紀にティムールの子孫によって基礎が築かれたムガル帝国の時代に、その土壌が失われ、イギリスなど西欧諸国の侵略を招くこととなる。

17 世紀に即位した〔G〕は、ヒンドゥー教の寺院を破壊し、さらに 16 世紀に異教徒の税負担軽減のために廃止されていた人头税を復活させるなど、ヒンドゥー教を抑圧した。これに反発したヒンドゥー教徒を中心に、各地でムガル帝国への反乱が続発し、インドは分裂状態となった。そしてそれが、外敵の侵略を誘発し、1757 年のブラッシーの戦いでフランスを打倒したことを契機に、以後、20 世紀半ばまで、イギリスがインドを植民地として支配していくこととなるのである。

問 1 文中〔A〕から〔G〕までの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔25〕～〔31〕。

- |     |          |   |           |   |        |   |         |
|-----|----------|---|-----------|---|--------|---|---------|
| A ① | ボロブドゥール  | ② | アジャンター    |   |        |   |         |
| ③   | ガンダーラ    | ④ | モエンジョ＝ダエロ |   |        |   |         |
| B ① | パラモン     | ② | ヴァイシャ     | ③ | クシャトリヤ | ④ | シュードラ   |
| C ① | サーマーン朝   | ② | マウリヤ朝     | ③ | グプタ朝   | ④ | ファーティマ朝 |
| D ① | ダヴィデ王    | ② | アショーカ王    | ③ | ハルシャ王  | ④ | カニシカ王   |
| E ① | クシャーナ朝   | ② | カラハン朝     | ③ | ムラービト朝 | ④ | チョーラ朝   |
| F ① | 義浄       | ② | 玄奘        | ③ | 法顕     | ④ | 寇謙之     |
| G ① | アクバル     | ② | バーブル      |   |        |   |         |
| ③   | アウラングゼーブ | ④ | カスティリオーネ  |   |        |   |         |

問 2 下線部（ア）について、インダス文明についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔32〕。

- ① 鉄器を用いず、代わりに青銅器を用いていた。
- ② インダス文字は、19 世紀末に解読された。
- ③ 印章や、ろくろでつくられた彩文土器が発掘された。
- ④ ヒンドゥー教の主神であるシヴァ神の原型が発掘された。

問 3 下線部（イ）について、ジャイナ教の創始者を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔33〕。

- |   |             |   |          |
|---|-------------|---|----------|
| ① | ガウタマ＝シッダールタ | ② | ナーナク     |
| ③ | ヴァルダマナ      | ④ | ナーガールジュナ |

問 4 下線部（ウ）について、奴隸王朝の建国者を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔34〕。

- |   |          |   |        |   |      |   |       |
|---|----------|---|--------|---|------|---|-------|
| ① | トゥグリル＝ベク | ② | ムアーウィヤ | ③ | アイバク | ④ | サラディン |
|---|----------|---|--------|---|------|---|-------|

問 5 下線部（エ）について、ブラッシーの戦いから続くイギリスのインド支配についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔35〕。

- ① ブラッシーの戦いと同時期に、フレンチ＝インディアン戦争が行われていた。
- ② ブラッシーの戦いと同時期に、スペイン継承戦争が行われていた。
- ③ イギリスは、農民に土地所有権を与えるライヤットワーリー制を実施した。
- ④ 1877 年には、イギリスのヴィクトリア女王を初代皇帝とするインド帝国が成立した。